

新刊のお知らせ

『千里の向こう』  
箕輪 諒 = 著

龍馬がもつとも  
頼りにした男！  
中岡慎太郎の歩んだ道とは？



箕輪 諒 (みのわ・りょう)

1987年生まれ。栃木県出身。2014年、丹羽家の敗者復活劇を描いた『うつろ屋軍師』で第19回歴史群像大賞に入賞しデビュー。2018年、『最低の軍師』で「啓文堂時代文庫小説大賞」を受賞。その他の著書に『殿さま狸』『くせもの譜』（「本屋が選ぶ時代小説大賞」候補）『ですすけ』。いま最も注目される若手時代小説家の一人である。

2019年 2月10日 発売

定価：1700円＋税 体裁：四六判並製328頁  
装画：安里英晴 装丁：城井文平

●著者への取材等、お問い合わせください

株式会社 文藝春秋  
〒102-8008 東京都千代田区紀尾井町 3-23  
プロモーション部  
tel: 03-3288-6142  
mail: pr@bunshun.co.jp

坂本龍馬は中岡慎太郎のことを以下のように評したという。「私は中岡と共に様々な策を講じたが、いつも意見が合わないことが悩みだった。しかし、私にとってはこの男でなくては、共に事をなせるような者はいない」

坂本龍馬とともに暗殺された男、中岡慎太郎。彼はいったい何者だったのか。

土佐藩の山間の小さな村の庄屋の家に生まれた光次（のちの慎太郎）は、やがて志士活動に身を投じ、幕末という時代を駆け抜けてゆく。地味で地道でいごっそう（頑固者）。真面目と理屈っぽさが取り柄の男が、魑魅魍魎うずまく幕末の世で何をなすことができたのか？

龍馬がもつとも頼りにした男の一代記。